

相州兵乱記

作者:北条家累代の家人

成立:不詳



解題

Keyword

- 「関東兵乱記」
- 軍記物語
- 小田原北条氏
- 「小田原記」
- 「北条記」
- 「鎌倉兵乱記」

『関東兵乱記』とも称される軍記物語。永享の乱から武田と北条の抗争の頃まで、すなわち永享8年(1436)年から永禄7年(1564)年頃までの小田原北条氏を中心とした関東の争乱を記したものの。『北条記』(#7)の一部を転写したものとみられ、『北条記』の異本として扱われる場合もある。

■ 成立経緯

本書の序文によれば、作者は北条氏累代の家人で、先祖が記した数十冊に及ぶ日記に、近来の事を書き加えて重撰したという。しかし、作者の名は明らかにされていない。またその成立時期も明らかではなく、『群書解題』では「安土桃山時代の成立か」と記されている一方、黒川真頼(国学者)は本書文中の描写から、江戸期に編纂されたものと指摘している(『国史叢書』)。

■ 内容

『北条記』全6巻のうち第3巻までの内容から、結城合戦前後の記述(憲実出家の事～太田道灌の事)を除いて再編成したもの。このため続群書類従完成会版の『群書類従』初版では、本書を『北条記』の抄出とみなし省略している(新版では収載)。

全4巻で構成され、各巻には以下の内容等を含む。

第1巻：関東公方之御事、公方管領不和之事、三浦介(時高)逆心之事、箱根早川尻合戦之事、(足利)持氏卿鎌倉へ御帰之事、持氏卿御出家之事付(上杉)憲直以下自害之事、持氏卿御最後之事

第2巻：太田(道灌)最後之事、山内扇谷不和之事、高見原

合戦之事、(北条)早雲蜂起之事、三浦介滅亡之事、三嶋参籠付霊夢之事、小田原軍之事並大森敗北之沙汰、立河原合戦之事、可諄(上杉顕定)討死之事、権現山合戦之事

第3巻：(三浦)義同討死之事、(北条)氏綱公方を婿取事、走湯山参詣之事、浅草之沙汰、江戸合戦之事、小弓御所発向之事、(里見)義弘合戦之事、府中軍之事、外郎事、河越城責之事、小弓義明と合戦之事、八幡宮建立之事、氏綱逝去之事、由井浜大鳥居建立之事

第4巻：河越之夜軍之事、上杉敗北並龍若(上杉憲政嫡子・龍若丸)最期之事、加嶋合戦之事、三浦軍之事、公方(足利義氏)鶴岡参詣之事、公方(足利晴氏)御他界之事御台所御歌之事、(上杉)景虎小田原へ寄来事、松山合戦之事、高野台合戦之事、箕輪城合戦之事

■ 諸本

『相州兵乱記』の書名では、内閣文庫(4巻 和学講談所旧蔵)、神宮文庫に所蔵がある。彰考館にも所蔵されていたようだが、戦災で消失したとされる。『群書類従』収載の『相州兵乱記』巻末には「右相州兵乱記以勢州林崎神庫本書写」との記載があることから、内閣文庫所蔵のものは神宮文庫本からの写本と推測される(林崎神庫は、現在の神宮文庫)。加えて、内閣文庫に『小田原記』の書名で所蔵される昌平坂学問所旧蔵本には、表紙に「相州兵乱記」との張り紙があることが『北条史料集』掲載の『北条記』解題で指摘されている。

『関東兵乱記』の書名では、国立国会図書館、内閣文庫、東京都公文書館、島原図書館松平文庫、彰考館文庫、天理図書館に所蔵されている。このうち内閣文庫所蔵の和学講談所旧蔵本(2巻)は、『相州兵乱記』の2～4巻に相当するものとされる。

また『国書総目録』では、本書の関連項目として『鎌倉兵乱記』の書名を挙げ、金沢市や加賀市等での所蔵を記している。



史料本文を読む

<翻刻本>

- ◆「相州兵乱記」(『群書類従』第21輯 合戦部 巻384 [K08/17/1-21])



史料についてさらに知る－参考文献－

- ◆黒川真道「解題(異本小田原記)」(『国史叢書』黒川真道編 国史研究会 1914 [K24. 7/64])
- ◆「北条記 解題」(『北条史料集』萩原龍夫校注 人物往来社 1966 [K24. 7/17])
- ◆「関東兵乱記抄(解説)」(『改訂房総叢書』第1輯 千葉県郷土資料刊行会 1972 [K21. 39/6/1]) ※解説のみ掲載